

豊玉姫

美貌の神として知られる豊玉姫（とよたまひめ）の伝説は、日本の二つの古代史である『古事記』と『日本書紀』に広く記録されています。

豊玉姫（とよたまひめ）は、神話上の皇族の祖先である火遠理命と結婚したとされています。結婚後、二人は3年間海中で暮らした後、陸に戻りました。豊玉姫が妊娠したとき、豊玉姫は火遠理命に出産の間は見ないことを約束させました。しかし、王子は約束を破り、豊玉姫の正体が巨大なサメであることを知ってしまいました。恥ずかしくなった豊玉姫は、二度と戻らないように海に逃げ込んだのです。

嬉野の温泉は皮膚病に薬効があるとされ、古くから皮膚病に悩む湯治客が多く訪れていました。嬉野川に生息するナマズの絵を描いたそうです。このナマズは嬉野の豊玉姫に仕えていると信じられ、豊玉姫神社に祀られていました。

現在の豊玉姫神社には、地元の温泉水を使った手水舎があります。この水で手を清めてから参拝します。境内には白いナマズの像があり、愛称は「ナマズ様」。美肌と無病息災を祈願して多くの人が訪れます。